

第48回 宇宙超怪獣キングギドラ(バンダイ)の巻



ゴジラ映画を代表する怪獣といえば、やはりキングギドラに止めを刺すのではないでしょうか(初代ゴジラはカテゴリー成立前の怪獣なので「番外」とします)。宇宙超怪獣キングギドラは金色の体に三本の首・二股の尻尾・一対の翼を持ち、6,000年前には金星の文明を壊滅させた恐るべき破壊力の持ち主です。口からは引力光線を吐き、地球を代表するゴジラ・ラドン・モスラのタッグチームと互角に渉り合いました。キングギドラの素晴らしさは強さが圧倒的であるのみならず、美しさにおいても他の追随を許さないところにある、と私は断言します。頭部～尾にかけては東洋の龍の雰囲気を湛えつつ翼や背ビレは西洋のドラゴンのそれを彷彿とさせるという、まさに空想上の怪物の頂点に君臨するにふさわしい姿をしています。ここまで勢いで書きまくって我に返りましたが、ここで云うキングギドラは昭和時代のギドラのことです。今回紹介するキットはバンダイ「The特撮Collection」第二期にラインナップされたもので、メカゴジラ同様艶消しメッキを施したタイプも後に発売されました。

ディティールアップ		テ・ク・ニ・ッ・ク
<small>組立の合わせ目を大きくするために、エリミネーターを用いて各部品の端面を削り、ウロコをホールドする。(ウロコの間に削ったカット部をエポキシ糊で押しつけてウロコの部をつけていく。)</small>	<small>頭部を合成ゴムバンドで接着し、その上からさらにボンドを塗り、ヘラで毛の感じができるように力を加える。</small>	<small>いらなくなってしまった毛などを取り除くのもよいでしょう。(この写真的に成るものはフルスクラッチ(手作り)したものです。)</small>
キットデータ		
メーカー	バンダイ	
スケール	1/350	
当時価格	1200円(税抜)	

その頃キングギドラの立体といえば数千円ではとても購入できないガレージキットか成型の都合上翼が短く分厚いソフトビニール製のトイしかなく、このキットの発売を心待ちにしていたのを覚えています(にもかかわらず購入したのは例によってワゴンセールでしたが)。造型的には細長い首と尾、薄くて大きい翼、頭部の精緻なモールドと申し分のない完成度でした。金型成型の限界から部品の合わせ目のウロコのモールドが甘くなってしまうのは仕方のないことであり、キットのインストにはその辺りの克服法も含めて(これまた例によって)別物になってしまっているディティールアップ例が紹介されています。また、当時の模型誌の作例で特殊なゴム系素材でギドラの首と尾を置き換えてクネクネ動くようにするというのがあって、是非自分もそのように作りたいと憧れたのですが素材の入手が叶わず、そのまま今日に至っています。いつか何とかしたいところです。